

GAATO@RESNA 支援機器サミット アウトカムとインパクト 参加報告

井上 剛伸

国立障害者リハビリテーションセンター研究所

1. はじめに

GAATO (Global Alliance of Assistive Technology Organizations) が2020年6月24日に法人として正式に発足しました。2000年のリハ工学カンファレンスで欧州リハ工学協会 (AAATE)、オーストラリアリハ工学協会 (ARATA)、北米リハ工学協会 (RESNA)、日本リハ工学協会 (RESJA) の4団体で取り交わした“徳島アグリーメント”から、20年の時を経て、支援機器に関連する10団体による世界規模の組織にまで成長したものです。日本リハビリテーション工学協会は、その設立メンバーとしてGAATOの設立に貢献しました。桂会長はその理事として運営に携わっています。ご興味ある方は、是非以下のURLにアクセスしてみてください。

<https://www.gaato.org/>

2. GAATO@RESNA 支援機器サミット

設立にあわせて企画された最初のイベントが、GAATO@RESNA 支援機器サミットになります。当初、RESNAのカンファレンスが7月7日～11日の期間で予定されていたので、そこでのGAATOのお披露目が検討されていきました。ところが、昨今のCOVID-19の影響によりRESNAカンファレンスがウェブ開催となり、時期が9月23日、24日に延期されたため、そこでの開催となりました。

イベントのテーマは“Global AT Outcomes & Impacts Summit”と題され、支援機器の効果を中心に据え、世界規模での支援機器の開発と普及を推進することを目指したセッションとして企画され

ました。このテーマは、WHO (世界保健機関) が進める支援機器のイニシアティブGATE (Global Cooperation on Assistive Technology) での議論でも中心となっているもので、GAATOでもそれに呼応して、多くの議論がなされている課題です。特にGAATOは支援機器の専門家集団 (AAATE, ARATA, RESNA, RESJA) が核となって発足した団体なので、効果と普及に関するテーマについてはこれまでの知見もありますし、今後さらに重要となる問題であるとの認識がもたれています。GAATO発足後の最初のイベントのテーマとしては、最もふさわしいものであったと思います。

最終的にイベントは以下の3つのセッションで構成されることになりました。

- 1) GAATO@RESNA Virtual Opening Forum on AT Outcomes & Impacts
9/23 8:30～9:45 (ET)
- 2) GAATO Global AT Outcomes & Impacts Summit Posters
9/23 10:00～11:20 (ET)
- 3) GAATO Global AT Outcomes & Impacts Summit
9/24 9:30～11:20 (ET)

1) のオープニング・フォーラムでは、GAATOの紹介に続いて、Marcia Scherer氏とRoger O. Smith氏による“Different Strokes for Different Folks: Different Outcomes are Valued by Different Stakeholders”と題した講演がありました。WHO-GATEでの議論の紹介とともに、支援機器に関わるステークホルダが多様であることを改めて指摘し、それによる課題とその解決策としてのシステム思考が紹介されました。世界規模で考えると、その多様性は

国立障害者リハビリテーションセンター研究所
E-mail: inoue-takenobu@rehab.go.jp

計り知れないものとなり、システム思考という一つの核となる考え方を共有し、個々の課題に取り組むことの重要性が示されたと思います。このイベントは、RESNA カンファレンスとは別の位置づけで開催され、参加は無料となっていました。

2)、3)のイベントは、RESNA カンファレンスの一部として開催されたもので、カンファレンスに参加登録した人のみ参加可能となっていました。ここでの発表は、事前に公募を行い、その後査読のプロセスを経た上で、採択された演題により構成され、ポスターおよび口頭発表としてプログラムされたものです。ポスター発表では、ルーマニア、インド、スペイン、アフリカでの支援機器の開発。普及に関する取り組みが紹介され、ディスカッション時間も設けられました。私は夜遅かったので、はじめのところのみ参加しましたが、活発な議論がなされていました。口頭発表は、“Emerging Concepts”と“Practice”の2つのセッションで構成され、それぞれ3演題の発表がありました。前半はアフリカでの3Dプリント技術を用いた車椅子製作の話題と、人間中心の評価の話題、支援機器サービスの用語の標準化に関する話題で、技術、製作、標準化という包括的な話題が扱われました。また、後半は、エルサルバドル、ウガンダ、北米からの発表で、グローバルな話題が議論されました。

正確には数えていませんが、多くの参加者が集まり、盛大なお披露目会になったと思います。特に、1)は無料だったこともあり、予想以上に多くの方が参

加し、日本からの参加者も多かったと思います。関心の高さがうかがえます。

また、GAATO では、英語のみではなく、言語のグローバル化にも取り組んでおり、今回のイベントは日本語のサイトも用意しました。以下の URL をご参照ください。ちなみに、RESJA の桂会長をはじめ国際委員会が協力して作成したものです。

<https://www.gaato.org/post/resna>

カンファレンス 2020 における GAATO 主催プログラムについて

3. おわりに

これまで、支援機器に関して世界的な組織が存在していなかったのですが、GAATO の発足により、今後いろいろな議論が世界規模で展開されることになると思います。また、福祉分野全体での世界的な議論においては、GAATO が支援機器分野の代表となつて、世界をリードすることになるように思います。リハ工学協会の皆さまには、引き続きご協力をお願いしたいと思っています。よろしくお願いいたします。



図1 GAATO のロゴ
(GAATO のホームページ: <https://www.gaato.org/>より)